

# 図工・美術科における大学と附属学校の連携による教員養成の実践研究

— 教育実習の成果をビジュアルレポートで展示発表する —

代表	東京学芸大学附属世田谷中学校	栗田 勉
	東京学芸大学	石井 壽郎
	東京学芸大学附属小金井中学校	大根田 友萌
	東京学芸大学附属竹早中学校	山田 猛
	東京学芸大学附属世田谷小学校	栗原 正治
	東京学芸大学附属小金井小学校	山本 真央
	東京学芸大学附属大泉小学校	守屋 建
	東京学芸大学附属竹早小学校	桐山 卓也
	東京学芸大学附属高等学校	神田 春菜
	東京学芸大学附属国際中等教育学校	嶽里 永子
	東京学芸大学附属特別支援学校	清水 麻由
	東京学芸大学附属特別支援学校	長 峯 美 紀

## 目 次

1. はじめに .....	36
2. 研究の目的 .....	37
3. 研究の方法 .....	37
4. 各附属学校の研究成果（ビジュアルレポート作品図版） .....	39
4-1 附属小金井中学校 .....	39
4-2 附属竹早中学校 .....	40
4-3 附属世田谷中学校 .....	41
4-4 附属小金井小学校 .....	42
4-5 附属大泉小学校 .....	43
4-6 附属竹早小学校 .....	44
4-7 附属世田谷小学校 .....	45
4-8 附属高校 .....	46
4-9 国際中等教育 .....	47
4-10 特別支援学校 .....	48

# 図工・美術科における大学と附属学校の連携による教員養成の実践研究

— 教育実習の成果をビジュアルレポートで展示発表する —

## 1. はじめに

図工美術部会はこれまで長きにわたって、授業の情報交換や実践紹介を中心に据えて、校種を超えて共通する課題に取り組んできた。基本的に各校一名の図工や美術の教師にとっては授業題材開発のヒントを共有し、生徒作品を見ながら造形教育の本質を探ることができる貴重な場として機能している。そして、その中から抽出された課題を研究テーマに設定し数年ごとに取り組んできた経緯がある。

### ■平成5年プロジェクト研究発表

色の認識と発達

～色彩に関する嗜好の調査～

### ■平成14年プロジェクト研究発表

「子供を中心とした教育」の実現に対する提案

～子供の造形美術活動から見直す幼・小・高・養・大を通した教育課程のあり方～

### ■平成19年プロジェクト研究発表

美術教育の可能性をひらく

～「双方向性」を視軸とした学びの構造から～

これらはいずれも附属教員同士が自分たちの授業題材研究やカリキュラム開発、そして明日の授業運営のスキルアップのためという意味合いが濃い。校種の違いによる我々同士の気づきや新しい価値の発見が、個々の造形教育の理念を深めていけた成果は大きかった。

しかし、そもそも学芸大学とは何か、その存在意義とはなんなのか、いまさらと思えるような、しかし、最も重要な課題が、逆にこれらの研究活動を通して浮かび上がってきた。将来、幼小中高それぞれの校種で活躍できる教師を学校現場に送る。こんな当たり前の社会的責務に対してその自覚が大学全体として乏しくはないのか、何より現在の教員採用数の心もとない結果に対して、本気で手を打たなくてもよいのか。美術科においては卒業作品制作とその発表を卒業時の中心課題としたことで教育学部を修了したことを認定される。ところが4月から本人に立ちほだかるのはあまりに厳しい現実である。一人で作品制作に没頭する活動とは真逆の世界が立ちほだかる。一人、学校現場で1クラス40名の生徒をさばきながら何クラスもの毎日の授業をこなす。授業題材に魅力がないと途端に初任者の授業などは崩壊する。学級経営と校務分掌、成績処理に追われる毎日。さらに、いじめや不登校といった現代的な課題に、新卒二年目にもなれば必ず直面する。モンスターと称されるような保護者に対しての適切な対応も避けて通ることができない。まさに学校現場はサバイバルな戦場である。生き残りをかけた戦いの日々である。実際に志半ばで教職を去った仲間たちを私は何人も知っている。

どうすれば学生たちが教職に希望を持ち、将来、美術教師という仕事に対して自信と誇りを持って臨むことができるのか、図工美術部会としてできることは何か、確かな効果を上げる方法はないのか、大学と共同して可能な方策はあるのか、すべての部員が真剣に話し合いを重ねた。研究結果に本人同士だけが満足感を得て、あとは研究紀要に記録が残りいつしか忘れていく。そんなそこで終了してしまうのではない、明日すぐに役立つ、使え

る研究を目指したいと考えた。

## 2. 研究の目的（対象：教育実習初年度学生）

部会での話し合いの中で、教育実習の成果を以下のような趣旨のもと、視覚的に感覚で伝えるビジュアルレポートを作成し、大学美術棟のエントランスにポスター形式で発表させる。そんな方法なら十分今年度から可能だろう、そして、多様で即効的な効果を上げることができるのではないか、という意見がまとまってきた。

- (1) 教育実習の準備段階から始まり、実習中での自分自身や仲間との研究や実践の記録を残し、貴重な現場体験を心に刻む。そして、次年度に控える応用実習に向けて、実践経験から得たことを生かすためしっかりと準備を進める。教員として世に出ることへのモチベーションを卒業まで維持し、教職試験に臨むための素地を作る。
- (2) 同じ学校に出向いて力を合わせて実習に取り組んだ者同士の共感や連帯を深め、実習後も双方向のつながりで研究を続けていく。また、他校へ行った学生の授業実践や現場体験を互いに共有することで、共有財産を増やしていく。
- (3) 後に続く後輩達が、教育実習のとはなんなのかを、興味を持ちながら展示作品を鑑賞しながら感覚的に理解し、3年時の初めての实習に対して、自覚を持たせていく。そのためにも、ただ発表するためだけに留まらず、貴重な財産は製本化し、実習資料集として蓄積し、いつでも閲覧可能にする。

## 3. 研究の方法

- (1) 教育実習を実施する第一週目でビジュアルレポートの趣旨を学生に理解してもらい、以下の様に制作手順を伝える。

- ①実習の事前準備、実習期間中、事後のまとめについて実習日誌を中心にしっかり記録に残す。  
(実習中の様々な場面での自分の感じたこと、考えたこと、実行したことを特に具体的に記録しておく。イラストなども残しておくといよい。)
- ②実習終了時、期間中で自分が最も心に残った事柄、場面をいくつか項目を挙げて、掲示される壁新聞のイメージで、紙面のラフなレイアウトをつくってみる。
- ③自分が最も伝えたい内容を中心のコンテンツに置いて、以下の書式に沿って作成する。

A3横置き



- ・横書き、縦書き、タイトル文字や見出し  
レイアウトなどは自由。
- ・後に PDF として解読できるように。  
(禁じ手：半立体、ポップアップなどの仕掛けがあるもの)

- ④レポートの項目立て（コンテンツ設定）

ドキュメントは手描き、ワープロどちらも可。写真やイラストなど、ビジュアル面で感覚的に伝えることも大切にすること。どうデザインするかは自分次第で美術科の腕の見せ所となる。

コンテンツの例

題材研究や題材開発の工夫      授業運営      生徒指導  
実習期間中の生活      美術科のねらい      大学での自身の研究とのからみ  
など

⑤その他、留意点など

- ・ 実習前と実習後、自分の意識や考え方がどう変わったか？
- ・ 失敗談や思い通りにいかなかったことなど、現場のリアリティーを大切にする。
- ・ 子供の正面からの写真、名前がわかるものを入れない。
- ・ はっきりと記名する。

- ① 類 氏名
- ②大学での研究室
- ③実習先学校名

⑥発表の方法

- i 完成したレポートを附属学校教員に PDF データで提出する（実習終了日から二週間後までに）
- ii 附属学校教員から発表に問題がないかチェックを受けた後、石井壽郎先生（大学担当教員）に直ちに送る。
- iii 委員の学生を中心に大学美術科教官の指導のもと、美術棟1F 壁面に展示する。
- iv 展示期間（予定：11月中旬 ～ 次年度当初）

この研究によって・・・

教員養成が本大学の使命の中心にあることを美術科全体、さらに他教科へアピールし、それに関わる全ての教職員の自覚を促し、大切な学生たちを、立派な教員の卵として社会へ送り出すことへの責任や誇りにつながることを願って、今後も研究を継続し深化させていく次第である。



# うまくアドバイスができなくて...

B類 澤田 亜砂美  
石井研究室  
学芸大学附属小金井中学校



人の体の描き方を教えて下さい!

手ってどうしたらうまく描けますか?

教育実習中、美術の授業で何枚も生徒に“絵の描き方”を聞かれた。

海の水画ってどう描いてますか?

この絵オカシに見えますか? どうしたらうまく描けますか?



私は写実的な絵を描くのがとっても苦手!!!!!!

しかも

生徒は私の言葉に本当に納得したのか??

海は空の色がうつろって青空なら水色かなって思えば海が青から青が青で青いって...

ほんとどうやら...

もう少し鼻長くしてあげて?

私は非から絵を描くことが好きで、“描き方”を誰かに教わった経験はあまりない。だから“描き方”をどう教えていいかわからない。だけれど目の前の生徒は“描き方”がわからなくなっている。私は自分が教わっていないことを教えることはできない。

どう言ったら伝わるかな  
ちやんと伝わったかな  
そっちはばねも、描き方、知らないかも...

“描き方”をどう教えるのが正しいかは、教師の言語に手動か否か生徒は別々。私で教師の言葉を理解し、どしどし教師の言葉に言葉通り生徒が居ることもあった。教師の助言次第では、“本当はもっとこうしたかったのに”と後悔させられたり、先生に言われた通りにやらなくてやめて、何となく空回しした。と思わなければならぬ。先生に言われた通りにやらなくて、自分次第で進め、どしどし、教師の言葉に近づいていく。

教師の言葉の影響力の怖さ  
あ、はい、はい、はい

生徒が「あ〜なるほど!」とちゃんと納得することが出来る助言をしなければならぬ!!!

大塚田先生や他の実習生の意見を聞いた時、やり方を観察したり、どうすれば生徒が理解してくれる助言ができるか授業の度に試行錯誤をした。

そつしているうちに、最初の頃は自分の知識や技術に自信がなかったために、生徒の質問に対してしつかりと向き合えず自信のない助言をしてしまったため、生徒にも私の言葉が伝わらなかったのだと気づいた。

そして、なんとか理解してもらおうと自分の言葉で必死に教えたり、私もわからないときは生徒と一緒に考えたり、生徒からの質問にしっかりと向き合ったことで、生徒が私の助言を納得して受け止めてくれるようになった。



描き方を教えるのではなく、その生徒の目的に合ったやり方を一緒に考える。という方法にたどり着きました!



ここでつまづく生徒が多かった!の例

背景より先に手前にあるメインのものから着彩し、だいたいは塗り進めてから背景などの奥にあるものが塗りやすくなるように気づく

遠近法がうまく使えず、向こうへ入るほど長く描く樹やその逆:近いの木や建物が思うように描けない

あんなにどうしようもありませんか?



竹早中学校  
教育実習  
B 類美術 3年  
洋画研究室  
B12-2516  
山本啓亮

## 授業②

先生や、他の実習生に言われたことを、反省し、直す必要がある。回を重ねるごとに、レベルUPしていかねばならない。私の場合、何か伝えたことがあるときに、「説明する」というより、生徒たちに「引き出させる」ことが大切であることを意識した。また話し方や声の大きさ、抑揚のつけかたなども、ビデオを撮って改善しようとした。また、「Cの生徒の指導」ということで、どうしても悩んでいる生徒への対応も必要である。アイデアスケッチに重ねながら針金を整形する生徒がいて私はそこから、針金の整形の「Cの生徒の指導」のヒントを得た。

もちろん、実習は、授業をするだけではないことも学んだ。生徒たちとご飯を食べるなどしてふれあったり、掃除や学活の指導をしたりすることもある。そしてなんと、私が良く関わったクラスの友が、良い発想を生まれた。

実は結局3時間でおわらず、鑑賞・自己評価を先生に任せることとなった……。

## 授業③

今まで学んだことをすべて出すつもりでやる。なんとか、日常のデザインを、感じてもらえなかなあと思う。生徒たちが楽しんで、生き生きと制作に臨んでいたり、すごい発想がでたりすると、非常に嬉しくなる。評価まできっちりする。

もっとも大事な  
最初の授業！

## 授業①

初授業、私は、生活の中に当たり前に存在するクリップの中には、機能性とデザイン性を兼ね備えたすばらしいものがあり、それに気づき感動して欲しいということからはじめた。

どうしたら、生徒のやる気が盛り上がるか、表現したいと思うか、初めてなので失敗は恐れない。機械類は突然動かなくなることがあるので注意。想定する。

他の人の授業をしっかりと見る！（もちろん他教科も）進め方や授業展開……どんな自分の授業をよくしようとする。しゃべり方、話の抑揚なども参考になる。

## オリエンテーション・教材研究

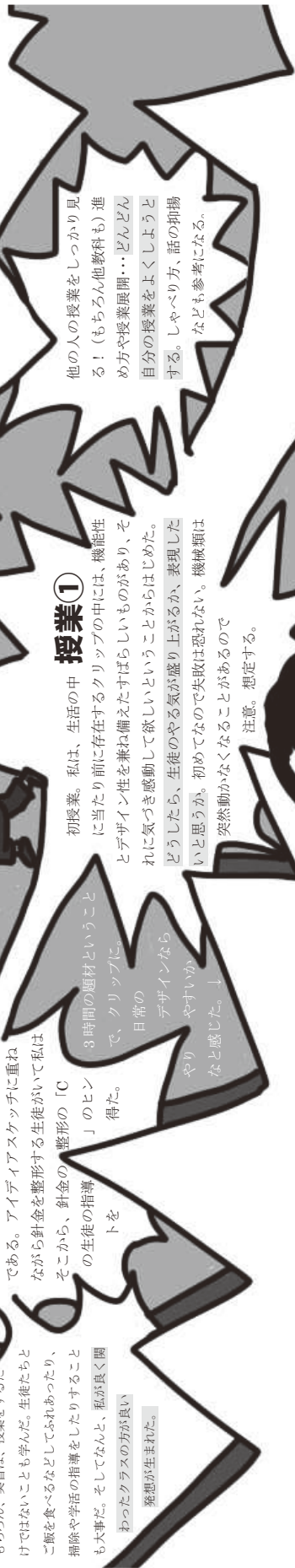
6月のオリエンテーションから、既に教育実習は始まっている。それ以前から、教材や、授業をして何を教えたかなどは考えておいた方が良い。もし教師を目指すのならば、常に考えておくべきだろう。竹早中学校では、何をするかは指定されない。したがって自分で考える。オリエンテーションで先生とお話するときには、ある程度何か考えておくべきである。私は、1クラス8回の授業しかないということを踏まえて、最終的に、「使って楽しいマイクリップをつくらう」という題材にした。しかし、これにすると決めると決めるまで、夏休みなどを思い、同じグループの人や、実習校の先生と何度も話し合った。美術科に関しては、この段階が最も大事な過程の一つであるかもしれないと感じた。

自分の目的や、理想を考えて、それを叶えるためにどうしたら良いかという視点が良いと思われる。



生徒の様子→

毎回の目標、全体の流れは常に提示しておくとい。↓



## 授業準備

私の場合、クリップ作りということ、必要なものとして針金があった。実習校の先生と相談して、実習校にあるもの、ないものを把握し、ないものは先生に頼まねばならない。私の場合は、ペンチで鉄の固い針金を整形すると難易度が高かったため、基本的に手で曲げられるアルミの針金が多かった。一度、基本本で針金を買ってみて、試作し、先生に頼んだ。針金の素材、太さ、長さ、値段などを考えるのはなかなか大変であった。こういうこともあるので、何をするかは早めに決めねばならない。

実習初日に授業がある人は大変だが、ない人は少し余裕があるので、他の人の授業を見て、授業の前日まで、場合によっては当日の朝までいろいろ考えている挑戦してみたいと思う。私は初めての授業までに何度も指導案を書きかえたり模造紙を書いたりした。





実

習

し

一

ホ

ト

A類 清部遥香  
相田研究室所属  
学芸大学付属  
小金井小学校  
にて

### 遠足

児童の興味や実態を見ることができた。また、児童をまとめる難しさを実感した。

●あの動物はなんだろう？

“もぐらの家”から、こんな↓  
ものが見えたとき、児童  
が「岩の後ろになにかい  
るよ！」と言いました。  
そこで私が「あれはね、  
実はあの岩みたくいなもの  
が体で、一匹の動物なんだよ。」と教える  
と、児童たちはびびくりし、自分たちのパ  
ンフレットを使ってなんの動物か調べまし  
た。



そしてそれがマレーバクという動物だと  
知ると、「先生！マレーバクもっと近くで  
見たい！」と、それまで一度も名前を出さ  
なかった動物に、とても興味を持った様子  
でした。

このことがあって、新しい発見や自分た  
ちで気づいたことには、児童は興味関心を  
持ちやすく、それによって学ぶことができ  
るのだと実感しました。

第一週の金曜日、多摩動物公園に遠足に行きました。

普段の学校生活では見ることのできない児童の様子が見られ、思うところの多い遠足でした。

●もめごと…

ある男の子が女の子にちよっかいを出してけんかになってしまつたら  
ブルが寝生。周りの子が必要以上に責め立てたこともあり、仲直りできな  
いままでした。これが反省です。

しかしトラブルのうち一つは、後の反省会で仲直りしました。行事の後  
には反省会をすることも大切だと思えました。

●児童をまとめるれない…

先に走って行ってしまつ子や、逆にゆっくり歩く子も。また、行く場所  
が決まっていなかったため、どの動物を見るかについて意見がバラバラだつ  
たり…。複数の児童をまとめる手立てが思いつかず大変でした。

●時間がギリギリ…

計画がしっかり立っていないかたうえにもめ事も多かったもので、帰る  
時間が集合時間ギリギリに。時間調整は大切にしなければいけないと実感  
しました。

●よいこともたくさん！

気分が悪いという児童のそばで支えてあげたり、また自分が行きたいとい  
ろを時間を守るためにゆずりあげられたり、児童の素敵なところもたくさ  
ん見ることができました。

もめ事もあったけれど、動物たちを見て楽しかったという言葉も児童の口  
から聞くことができました。最後に時間がギリギリの中コアラ館に行けたこ  
とが、満足度が高かつたようです。

### 図工の授業

授業の進め方や導入の難しさを考えさせられた。

図工では、「とっておきヘアースタイル！」とい  
う題材名で、材料を穴の空いた画用紙に貼り付け  
顔のかわくれないお面のようなものを作りました。  
安全指導をしっかりとした上で、子供が楽しめる  
活動を考えるのが難しかったです。でも…

みてみて！

←このように  
作った作品を  
つけて先生や友達に見せる  
児童の姿がたくさん見ら  
れたことがとても嬉しか  
かったです！



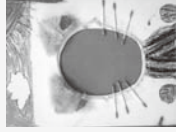
◆反省点◆

・両面テープの正しい使い方が  
わからないうちの子がいるのを確  
認せずに始めてしまいました。

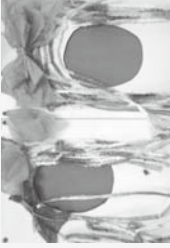
・題材を説明した時の男子児童  
の食い付きがあまりよくな  
かったです。（導入の改善が  
必要！）

☆児童の作品☆

『きゅとりぼん』→  
毛糸を使って髪  
毛を作り、カラー  
セロハンでメロン  
ソーダをつくりま  
した



←『ねこ』  
めんぼうのおひ  
げ。



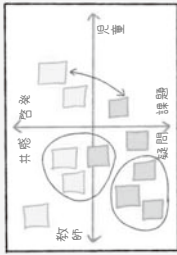
↑『フレッシュユウみまほうつかい』  
班ごとに活動を行ったため、友達  
とセットの作品を作ったり、友達  
のアイデアを見て真似してみたりす  
る様子も見られました。

### 協議会

意見を交わすことで、  
反省や新たな発見が見えてきた。

実習中いくつかの授業はしましたが、どの  
授業でもたくさん反省点を授業後の協議会  
で言い合いました。自分では気づけない点を  
指摘してもらったことで、新たな発見がいくつ  
もありました。実習を通して、どの授業でも  
大事なのは「子供目線」で授業を考えること  
だと学びました。

また、協議会では議論の記録の取り方も学  
びました。



↑協議会の記録の取り方の一つ。付箋を使っ  
たり、関連する意見をまとめたりします。











● 「子ども」とは

子どもたちの発言に気が付かされたことがたくさんありました。実習は子どもたちの貴重な時間を頂いているということを忘れたいよう注意しました。

子ども扱い  
しない!



● 助けをかりる。  
実習中は同じ担当先生で仲間ができます。ひとりですべてをこなすのではなく、仲間と力を分かち合ってください。

子どもたちに良い授業を提供するためと考えたら、それは恥ずかしいことでも後ろめたいことでもないはずだ。自分たちの力を活かす時間、仲間と力を分かち合ってください。

ということが私にとって一番の学びでした。

# 事前事後の指導フラス

実習で多くの発見や学びを得ましたが、その中には実習に臨む前から熟知しておくべきだったと反省に値するものもありました。

ME A美 金川 紗帆 (木工研究室所属)

配当先 世田谷小学校

サッパリ分らない...

指導致は「授業台本」にすぎない

と正直存在を軽視していましたが、制作工程に意味があると今は感じています。

ベテランの先生でも  
初回指導は  
難しいぞウ!



答えを決めることを重視するような授業展開をしてしまったことに

大変反省しました。教師の役割・役目は何 なのかを考えながら

実習に臨むことが大切だと思います。

● 教師の役割とは

子どもが私に気を遣っている、遠慮しているのだと感じて大変申し訳なくなりました。

それから子どもたちと一緒 に行われる時間を何よりも大事にしています。

● 忘れられない言葉



Keep Smiling

突然の ITA王、ゲーム

あかいつの? いらないの?

今日のMVは 実習生の茶室色!!!

先生お返しに 分かります?

先生の先生 先生お返しに

先生お返しに 先生お返しに

先生お返しに 先生お返しに

先生お返しに 先生お返しに

先生お返しに 先生お返しに

先生お返しに 先生お返しに

先生お返しに 先生お返しに









# 特別支援学校 幼稚部～ひかい組の子どもたちと～

C類特別支援学科 4年 矢板 奏穂



東久留米にある東京学芸大学附属特別支援学校の幼稚部(ひかい組)で、「造形遊び」の授業を4時間行わせて頂きました。

## 《子どもたちを知ること》

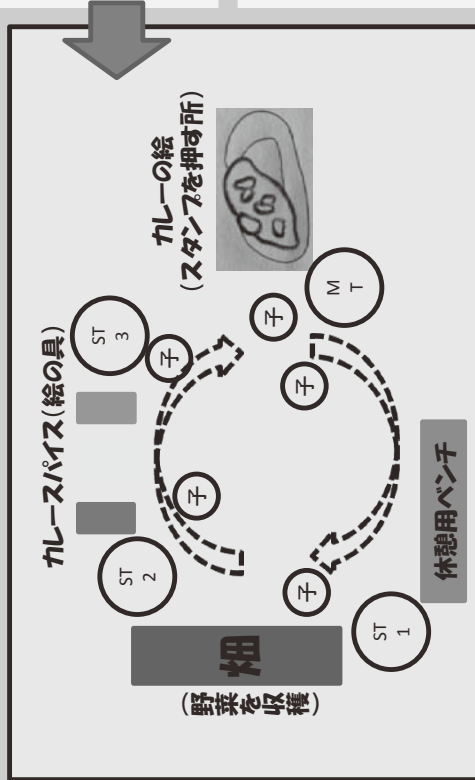
ひかい組には5人の子どもたちが在籍しています。授業を行う上で「子どもを知ること」がとても重要でした。掴む、転がす、描く、など子どもによってどこまでできるのか。どんな遊びが好きで、何が苦手なのか。など5人それぞれ異なる状態をできるだけ具体的に知ることがとても重要で、且つ難しいことでもありました。

## 《題材選び》

5人の実態をもとに、  
 ・発達段階にあっているもの  
 ・普段なかなかできない経験ができるもの  
 ・自然に触れられるものは何か考え、選んだのが「野菜スタンプ」です。料理される前の野菜を思う存分見たり触ったりする経験をしてほしい。また、工夫次第でそれぞれの子どもたちの発達段階にも対応できる題材だと考えて選びました。



## 《野菜スタンプの環境構成》



## 《いかに遊ぶか...?》

野菜スタンプを題材に選んだものの、机の上でただ野菜に絵の具をつけてスタンプを押すのは、ひかい組の子どもたちにとって楽しい遊びにはなっていないませんでした。

「幼稚部の『造形遊び』は図工とは違う。遊びの中でいかに子どもが自由に活動するか」これが私にとって一番の課題でした。

「遊びとは何か」

「子どもたちにとって楽しいことは何か」

「実態の異なる5人がそれぞれ楽しめるようにするためには？」

常に自問自答し、実習仲間に相談し、先生方にアドバイスを頂き、考え続けていきました。

## 《工夫》

- ・机の上で活動 → 自由に動くことができる空間へ
- ・ただスタンプを押す → カレーを作るという遊びに
- ・絵の具の工夫 → 野菜に絵の具をつきやすく (ガーゼの下にスポンジを敷いて絵の具をしみこませる)
- ・カレーの絵 前半: 立てる(カレーがあることがよく見える)  
後半: 寝せる(野菜を転がせる、スタンプが押しやすい)
- ・休憩用ベンチを用意(他の子の様子を見ることができる)
- ・気が散りやすい他のおもちゃなどは目に入らないところに移動する

- ①野菜を収穫する (段ボールで作った畑から好きな野菜を取ってくる)
- ②野菜にスタンプをつける(絵の具をつける)
- ③カレーの絵の上にスタンプを押す

## 《実習を終えて》

同じ題材でも、環境の作り方、題材の見せ方などで子どもたちのたは全く違う姿を見せてくれました。子どもたちに合わせて、大人がどう工夫するかで、子どもたちは大きく変わるということを強く感じました。私にとっても貴重で、楽しく、充実した3週間でした。この経験は必ず今後に生かしていきたいです。特別支援学校の子どもたちと先生方から心から感謝しています。本当にありがとうございました。